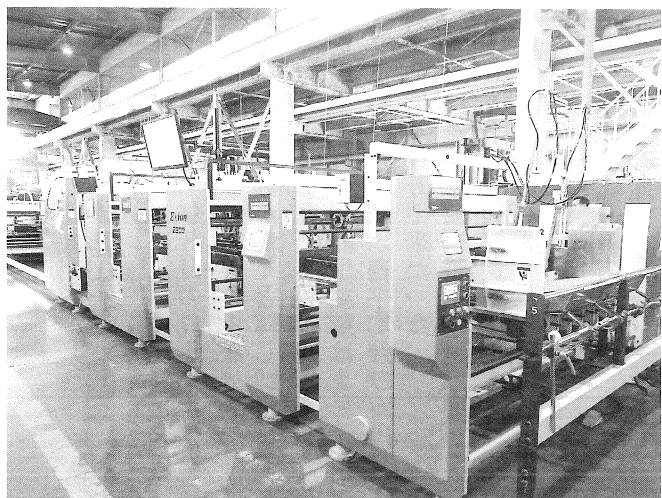


**機械****日本紙工機械、新型グルア「エクシオン」  
設定簡素化、セツト替時間を5分の1へ**

日本紙工機械グループ(本社工場・茨城県北相馬郡利根町早尾2-1、電話0297-61-7117)は、9月29日、10月1日までの3日間、本社工場で新型ワンタッチケースグルア「エクシオン」の内覧会を開催、段メーカーやボックスメーカーなど約40社、85名が見学を訪れ、ハイテク化などによりセツト替え時間の大幅短化を実現する次世代型ワンタッチケースグルア「エクシオン」への関心の高さを伺わせた。

新型ワンタッチケースグルア「エクシオン」は、ミレニアムシリーズの後継機種として開発した新型機で、基本構成は給紙、折込み、折込み、本折り、トロンボーン、コンベアのユニット構成。しかし新設計の完全ユニット化により、大規模な改造工事が不要でユニット構成を変更できるなどの特徴を持つ。このため機能アップに必要な各種ユニットを生産内容に応じて追加装備できる。また毎分300枚の高速生産を可能とする世界最速のバックフィンガー「フロントバックフィンガー」や、毎分200枚で生産可能なジャケット貼りフインガーシステムなど高機能ユニットに加え、歩留まり改善に効果を発揮するカリブレーションユニット、仮折りローラーユニット、給紙間隔制御装置、給紙ミスト装置、冬場の乾



実演稼働した新型ワンタッチケースグルア「エクシオン」

燥時期の良品生産に最適なスチーム装置、氷点下20度以下でもトラブル発生を回避するグルー凍結防止システムなど、各種検査装置も豊富に取り揃えており、機能アップに必要なユニット、各種システムを簡単に追加装備できる。

実演運転した大型段ボール向けワンタッチケースグルア「エクシオン」(シート幅2300mm)には、A/B段のサイド貼りで生産スピードを2倍に向上し、歩留まり改善の実績を持つ独自開発の仮折りローラーユニットを搭載しているほか、新機能として大幅なセツト替え時間の短縮を実現するフレイム位置制御システムを採用、従来のカウント方式から「絶対位置スケール測長システム」に変更し定期的な原点復帰を不要としている。

また本折フレイムの高さ調整も製品毎にデジタルデータ化して保管する事で、手動で調整していたフレイム高さを自動設定、オペレータによる調整ミスや調整誤差の発生を解消し、常に製品の安定した高品質化が可能となる。トロンボーンやホールディング部の速度設定もデジタルデータ化する事で、リピートオーダー毎に最適な位置設定や速度調整を再現、各種コンベアの圧力調整をシーケンサーで取り込み、数値をメモリーするハイテク機能によりオペレータの手動による調整作業を容易かつ簡素化するなど、新型ワンタッチケースグルア「エクシオン」は可能な限り調整作業に必要な情報をデジタルデータ化しており、実演運転では従来は約10分程度を要するセツト替え作業を僅か2分弱に短縮するなど、生産性を大幅に向上する新型ワンタッチケースグルア「エクシオン」を見学に訪れた段メーカーやボックスメーカーを前に実演運転した。

(裕)

**日本紙工機械、紙器向け新型グルア開発  
年間10台目標、1号機を明年2月に納入**

日本紙工機械グループは、印刷紙器向け新型サククマシン「ネクシア」の内覧会を明年2月に開催、本格販売を開始する。新型サククマシン「ネクシア」は、印刷紙器メーカー向けの小型グルアとして容易なセツト替え作業と耐久性をコンセプトに開発したもので、既に印刷紙器メーカーへ1号機を納入することが決定している。国内市場に加え中国の有力紙器メーカーを対象に販売を計画しており、年間10台を販売目標としている。

(裕)